



日立市のコミュニティ情報紙

こみこみ

No.54

発行日/2025.3.20
発行/日立市コミュニティ推進協議会
編集/コミュニティ情報紙編集委員会
日立市コミュニティ推進課内 ☎0294-22-3111
〒317-8601 日立市助川町1-1-1

ひたちシーサイドマラソン2024 コミュニティ推進協議会700名のボランティア

コース監察や“おふるまい”

昨年11月17日(日)、日立市市制施行85周年記念の冠事業として「ひたちシーサイドマラソン2024」が開催され、日立市初のフルマラソン大会となりました。

日立市市民運動公園でのセレモニー後、午前10時にスタートした4,396人のランナーは北上してシーマークスクエア付近で折り返し、国道245号線に沿って南下、日立おさかなセンター付近で折り返し、ひたちBRT路線内を走ってゴールを目指しました。

シーサイドマラソンの運営にはコミュニティ推進協議会も支援、コース監察、おふるまい等を担当、各コミュニティ30名～50名のボランティアを募り、総勢700名が協力しました。

コース監察は事前に割り当てのあったコースの沿線を担当。14km地点の会瀬十文字交差点応援エリアでは、会瀬浜太鼓が演奏して盛り上げました。ボランティアは揃いのジャンパーで交差点等の係員としてのコース監察と共に、ランナーに声援と拍手をおくり続けました。

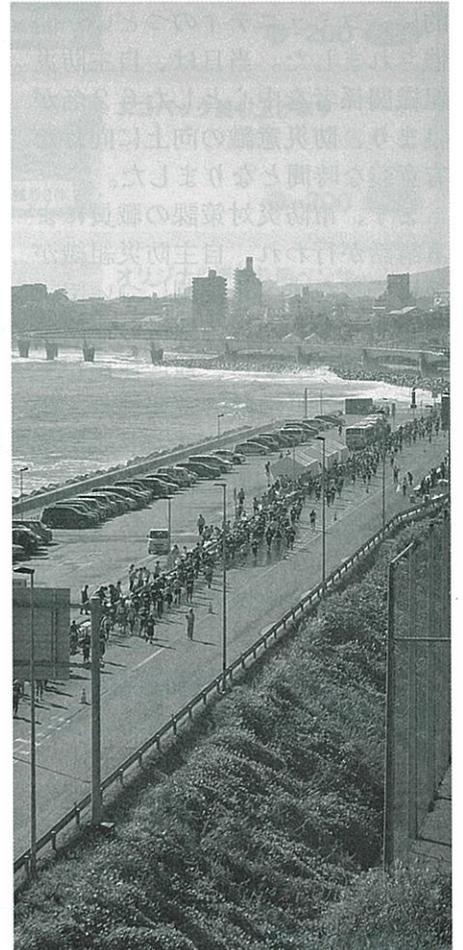
また、“おふるまい”は水木学区、久慈学区、河原子学区の3つのコミュニティが担当しました。

水木学区は2km地点のはぎ屋旅館付近で大みか饅頭2,150個を30名で配布しました。

久慈学区は折り返しの日立おさかなセンター付近の28.3km地点で、久慈浜産シラス入り細巻き寿司3,000本を提供しました。2つの業者に発注した寿司は、交流センターに運ばれ、1本を3等分して紙コップに入れて準備。久慈浜女性会、久慈・大みか女性会が応援する等、約50名が午前11時30分から午後2時30分まで奮闘しました。

河原子学区は、交流センター付近36.3km地点のBRT路線内で、学区内の4店舗に協力を依頼した、クッキー、ハンバーガー、どら焼き、酒まんじゅう、おにぎり、から揚げなどを用意。大きなものは食べやすい大きさに切って提供しました。この活動を支えた人たちは約80名、終盤にさしかかるこの地点のおふるまいはランナーの力になりました。

「初めての体験で楽しかった！」の声も届いています。



【ひたちシーサイドマラソン2024】会瀬の応援エリアで太鼓演奏



[まちのコイン“タッチ”をプレゼント]
こみこみ第54号を
読んでくれたら



コミュニティのつどいを開催 地域の防災力向上に向けて 切磋琢磨

2月27日、自主防災組織の役割や取組事例を共有し、活動実践者のスキルアップを図ることを目的に、コミュニティのつどいが開催されました。当日は、自主防災組織関係者を中心とした62名が集まり、防災意識の向上に向けた有意義な時間となりました。

まず、市防災対策課の職員による講話が行われ、自主防災組織が地域で果たすべき役割について説明がありました。各地域の取組事例を紹介しながら、地域住民が主体となる防災活動の重要性や、組織の強化に向けたポイントが示され、参加者からは「地域での防災活動を見直す良い機会になった」との声があがりました。

続いて、各地域の自主防災組織による活動紹介が行われました。

中小路学区コミュニティ推進会は、小学校と連携し、地域の外国人住民を巻き込んだ自主防災訓練の活動事例を紹介しました。この訓練は、児童の登校日である土曜日に開催されたもので、多言語表

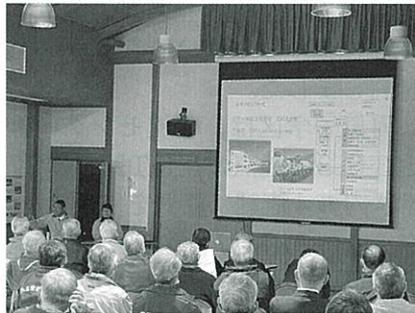
示の案内や災害時の対応マニュアル、指差しボードやピクトグラムを活用方法などが説明され、とても実践的な発表でした。

また、会瀬学区コミュニティ推進会からは、地域と学校が連携して進める自主防災活動についての発表がありました。小学校と連携した訓練の一環として、児童向けに原子力災害についての説明を実施し、家庭でも防災意識を高める工夫がなされました。これにより、児童のみならず保護者の関心の向上につながっています。こうした取組は、地域全体の防災力を強化するうえで重要な役割を果たしています。

さらに、諏訪学区コミュニティ推進会からは、ドローンを活用した状況確認訓練の事例が紹介され

ました。災害発生時にドローンを使用することで、上空からの視点を活かした住民の捜索や避難誘導の効果が期待されます。今回の発表では、実際にドローンで撮影された動画も紹介され、視覚的にも分かりやすい説明で、大きな関心を集めました。

本行事を通じて、各地域の自主防災活動の好事例が共有され、今後の防災活動に役立つ多くの知見が得られました。参加者からは「ほかの地域の取組を参考にしながら、自分たちの防災活動をより良いものにしたい」との意欲的な声も多くあり、地域の防災力向上に向けた意欲が高まりました。引き続き、防災意識を高める取組が進められることを期待します。



各地域の取組事例を発表



地域の防災力向上のために

「原子力災害 広域避難ガイドマップ」 災害に備えるための説明会

昨年9月20日号の市報と一緒に配布された「原子力災害広域避難ガイドマップ」等を基に、各地域で災害時に備えるため、広域避難計画の説明会が実施されました。

このガイドマップは、原子力災害が発生した時に身を守るためにとるべき行動や避難経路等、知っておきたい情報をまとめたものです。家族で目を通すと共に、すぐに取り出せる場所に保管して置きましょう。

原子力災害で重要なことは、放射線や放射性物質から身を守るこ

とです。しかし、放射線は人間の五感で感じるができないため、放射線についての基本的な知識を身につけて正しく対処することが必要です。

原子力災害発生時の行動は、お住いの地域によって行動は異なりますが、必要な行動を確認し、万が一の緊急時に適切な行動が取れるようにしておきましょう。

また、原子力災害発生時には事故の状況に応じて発信される国・県・市などの指示に従って落ち着いて行動することが重要です。

3.11の記憶はまだ鮮明に残っています。再び同じことが繰り返されないよう願うところです。

原子力広報モニターって？

東海村の日本原子力発電(株)は、原子力発電と発電所の事業を地域に広報する使命があり、広報の地域側の受け皿の一つとして原子力広報モニターがあります。

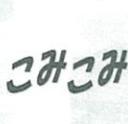
昭和63年に東海村でスタートし、平成8年から日立、東海、那珂、ひたちなか、水戸の5市町村に各数名ずつ、2年を限度に委嘱されます。目的は、日本原電の原子力発電、特に東海第二発電所の工事状況等を知ってもらうことです。このため、原子力の基礎知識や発電所内外の関連施設の現地研修等、知見を広げる機会が提供されます。

もうすぐ1年！ コミュニティはまちのコイン“タッチ”とどう向き合っていくか

8,000人を超えるユーザーが登録しているタッチは、もうすぐスタートして1年を迎えます。

令和6年度は、初年度として清掃活動などのコミュニティの体験はもちろん、活動拠点である交流センターに足を運んでもらえるような魅力的な体験の作成を心掛けてきました。新規事業ということもあり、課題はたくさん。各コミュニティが協力しながら向き合っていくよう、まちのコイン推進会議を立ち上げて進めてきました。

スタートして2年目となる令和7年度も、現状に満足せず取り組んでいきます。

	まちの清掃に参加したら500タッチプレゼントします。 +500 もらう		おでん大根200タッチで差し上げます 残り8件 -200 あげる
	おもちゃライブラリ参加で50タッチ差し上げます。 +50 もらう		エコバック差し上げます 残り2件 -200 あげる
	【くさゼロ・フォトコンテスト】展示場にきてくれたら +50 もらう		オリジナル手作り用ペンケース(小物入れ)差し上げます。 残り24件 -200 あげる
		こみこみ第54号を読んでくれたら +54 もらう	
			夏まつりに参加した方に、かき氷をプレゼント 残り21件/日 -500 あげる

※体験は時期により変更や中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

地域の大人たちも下校時の防犯活動 大沼学区コミュニティ推進會

日立市の23学区コミュニティ活動で重点となる取り組みの一つに「防犯」が挙げられるのではないのでしょうか。防犯活動は各地域によって様々ですが、中でも「青色パトロールカー(通称：青パト)」による活動が多いと思います。

ちなみに日立地区「青パト」実施団体は、日立市防犯サポーターのほかに17学区に存在しています。(令和6年3月1日現在)

大沼学区でも「青パト」防犯活動を定期的に行っています。①安全パトロール隊員の約90名が週1回、輪番制で活動、②青点滅のパトライト装着公用車で実施(2~3名)、③スピーカーで不審者、詐欺、盗難などの被害注意を行いながら学区内を巡回しています。

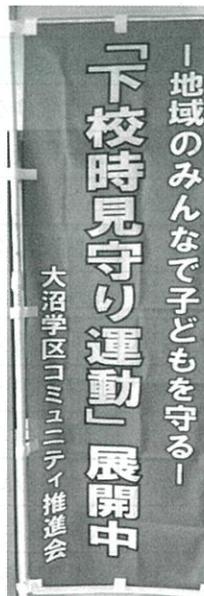
しかし最近、子どもたちの下校時に不審者が現れたという情報が

あり、「下校時に不審者が現れ難い手段は何か」を検討、その結果、「地域の大人たちが参加して下校時の子どもたちを見守ろう！」と下校時見守り運動を始めました。

①無理をせず下校時間に合わせ、大人が屋外に出て見守る。大沼小学校は毎月の下校時間をコミュニティ推進會に連絡する。②屋外で自宅周辺の清掃・家事・散歩等を行なう。

③のぼり旗30本を学区内の要所に設置してPRする。

この地域のみみんなで子どもを見守る運動の成果は、これから出るものと確信しています。



学区内に設置したのぼり旗

23学区防災マップ作成 コミュニティ独自の情報を掲載

日立市では、自主防災組織育成事業(災害対応力強化事業)として、平成25年に作成された学区防災マップの更新を行いました。

令和5年の台風第13号に伴う豪雨被害を踏まえて、23のコミュニティが把握している独自の危険箇所の情報などを掲載して、地域住民が共有する目的で更新作業が行われました。

会瀬学区では学区内の生活必需品取り扱い店舗や危険箇所の加除修正をしてマップを更新、住民への周知とともに、地域防災力の強化ができるようになります。



子どもたちから見たコミュニティ 行事に参加して!

昨年11月10日 「滑川地区文化祭」

滑川学区のコミュニティ活動に参加してよかったと思います。自分たちの作った作品をもらって喜んでいただいている姿を見て、とても嬉しく思ったからです。普段あまり関わりを持たない高齢者や、子どもたちとたくさんお話ができ、参加した部員共々良い経験になったと言っていました。次の機会があればまた参加したいです。素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

(滑川中：美術部部長・助川智美)



自分たちの作品をプレゼント

浜太鼓で広がる交流や経験

会瀬学区コミュニティ推進会生涯学習部の「会瀬浜太鼓」で活動しています。2年生から参加して、6年生でリーダーとなり地域のイベント時に活動や演目を紹介しています。シーサイドマランでも浜太鼓でランナーを応援しました。

活動に参加して地域の人たちやほかの学年との交流、リーダーとして責任ある役目も経験することができました。活動を広げ、地域の一員としてこれからも続けていきたいです。

(会瀬小：関 一步)



シーサイドで応援

中学生の十王まつり雑感

昨年8月4日の十王まつりに参加してみて、屋台の種類がたくさんあり、とても美味しかったです。お店の人も優しかったです。花火をもっと立派にして、時間も長めがいいと思います。祭りを行う場所も広くして、参加者が毎年多いので、事故に会わないためにも場所を広く使った方が安全です。もっと範囲を増やして、屋台の数も増やすと、密集しすぎずスムーズに回れるのかなと思いました。

(十王中：江田靖菜、小野千遥)



屋台の種類も多く

コミュニティ活動体験研修 各コミュニティ実施内容

市では毎年、入所1・2年目の職員と新任係長職員がチームを組み、コミュニティ活動の現場を体験する研修を行っています。令和6年度は、各地域において以下の内容を体験しました。

学区・地区	実施内容	学区・地区	実施内容
十王	生涯学習・作品展示発表会など	油縄子	三世代ゆなご秋祭り
豊浦	豊浦学区三世代文化祭など	諏訪	諏訪学区自主防災訓練など
日高	東連津川清掃及び草刈り活動	大久保	日立の魅力再発見ウォークなど
田尻	ふるさと再発見ウォークなど	河原子	賀詞交歓会など
滑川	なめかわファミリーまつりなど	塙山	地域福祉活動など
宮田	宮田元気っ子体験村など	大沼	防災連絡会議など
中里	オータムフェスティバル	金沢	地域モビリティ検討委員会など
仲町	仲町まつり	水木	防災訓練など
中小路	なかこうじ健康フェスタなど	大みか	スポGOMI大会など
助川	助川学区学校子ども会など	久慈	久慈地区スポーツフェスティバルなど
会瀬	地域防災訓練など	坂下	文化芸能発表会など
成沢	成沢ふれあい祭りなど		

くさゼロ・フォトコンテスト 最優秀賞は誰の手に!?

日立市コミュニティ推進協議会では、市の「ひたち・くさゼロ大作戦」の取組の一環として、「草刈り」に「アート」の要素を掛け合わせた「くさゼロ・フォトコンテスト」を開催しました。

今年度は、市民投票によるコンテストへとパワーアップ。まちのコインを活用した投票で、たくさんの応募をいただきました。

最優秀賞は、塙山学区の「塙山のメイン通り おまかせください」でした。優秀賞には、助川学区、滑川学区と続きました。

お見逃しの方は、日立市コミュニティ推進協議会のInstagramをチェック!



歴代のこみこみはこちら